

健康経営の推進に向けた実証試験について

1 要旨・目的

健康分野でのDXの一環として、若い時期からの生活習慣の改善と定着を進めるため、AI技術を用いて将来の疾病リスク等を「見える化」し、県内企業の従業員の健康づくりをサポートする「健康経営の推進に向けた実証試験」を本年度から開始する。

この実証試験は、「健康経営」に取り組む県内企業と連携し、健康診断のデータからAIにより将来の疾病リスク予測等をするとともに、スマートフォンのアプリ等を活用して生活習慣改善提案を実施し、働き盛り世代の従業員の健康づくりにつながる実効性ある後押しの方法を検証するために実施するもの。

2 現状・背景

- 本県の健康寿命は、他の都道府県と比較して低位にある。
(健康寿命(H28): 男性27位, 女性46位)
- 健康寿命と要支援・要介護1の割合に相関性があることから、令和元年度から高齢者の「通いの場」の設置の加速など介護予防の推進に注力してきた。
- 人生100年時代に向けた、若い時期からの健康づくりの必要性をビジョンに位置付けた一方で、現状は、若い時期を対象とした施策は食育や運動習慣の推進に向けた普及・啓発(機運醸成)に留まっており、実効性のある具体的な介入策に至っていない。

3 概要

(1) 対象者

県内に事業所のある企業及びその従業員 約2,000人
(現在、県ホームページ等において、参加協力企業を募集中。)

(2) 事業内容

ア 実証試験の流れ

実証試験の大まかな流れは、次の図のとおり。



イ 効果検証の方法

この実証試験では、ランダム化比較試験（RCT）の手法により、参加者を複数のグループに分け、後押しの内容に差異を設けることにより、どの方法が、どの程度効果があったのかを検証する。

ウ 検討会の設置

実証試験の評価を行うため、学識経験者その他関係団体で構成する「データを活用した働き盛り世代の生活習慣改善策に係る検討会」を令和3年5月に設置。有効な後押しの方法の確立に向けて、検討会でのレビュー、これを受けた改善を繰り返し実施する。

(3) スケジュール

現在、実証試験で使用するAI及びスマートフォンのアプリケーションを提供する民間事業者について、公募型プロポーザルにより選定手続を進めているところ。

今後、令和3年秋頃からの実証試験開始を目指し、参加協力企業の募集を継続するとともに、AI等を提供する民間事業者との調整を進める。

(4) 予算（一部国庫）

21,072千円

（働き盛り世代の健康づくり推進事業～健診情報等のデータ活用に係る検討）

4 その他（関連情報等）

県HP「広島県内企業の健康経営の取組を支援します」 ▶▶▶

<https://www.pref.hiroshima.lg.jp/site/kenkoukeiei/>

